

# 平成を振り返って

元経済企画庁長官、福山大学客員教授

田中秀征

- \*平成は「停滞の時代」
- \*バブルと冷戦終結が出発点
- \*遅れた公的資金投入
- \*イラク戦争の総括がない
- \*結局は「器の改革」に
- \*官邸強化による不透明化
- \*唯一のチャンスを逃す
- \*歴史認識の違いが重要
- \*保守本流と自民党本流
- \*政治劣化招く選挙制度



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

本日はおなじみの田中秀征先生においていただきます。平成がもうすぐ終わろうとしておりますが、政治の世界からこの時代を振り返っていただくにはいちばん適切な方だと思ってお呼びしたわけでございます。新聞、テレビ等見ると、相変わらずお粗末なことが起きています。そういう些末なことはともかくとして、この時代にわが国の政治は何ができて、何ができなかったか、そういうことを含めて今日はじっくりとお話をいただきたいと思えます。

（拍手） それでは田中先生よろしくお願いたします。

## 平成は「停滞の時代」

田中 皆さんこんにちは。

私の話としては今日が平成最後となりますので、平成の政治を振り返るということでお話したいと思えます。平成政治への反省ということになりますと、自分もかわりが浅くはないので自分の反省事項でもあるということですが、

平成を一言で言うと、「停滞の時代」と言わざるを得ない。このところずっと考えているのですが、結局、停滞をしていた時代だと総括せざるを得ない。ああしたらよかった、こうしたらよかった、あれがいけなかったということになると、大きく五つのものが頭に上がります。一つはバブルに対する対応です。それから